

4月14日(木)21時26分(前震)
4月16日(土)01時25分(本震)

地震発生

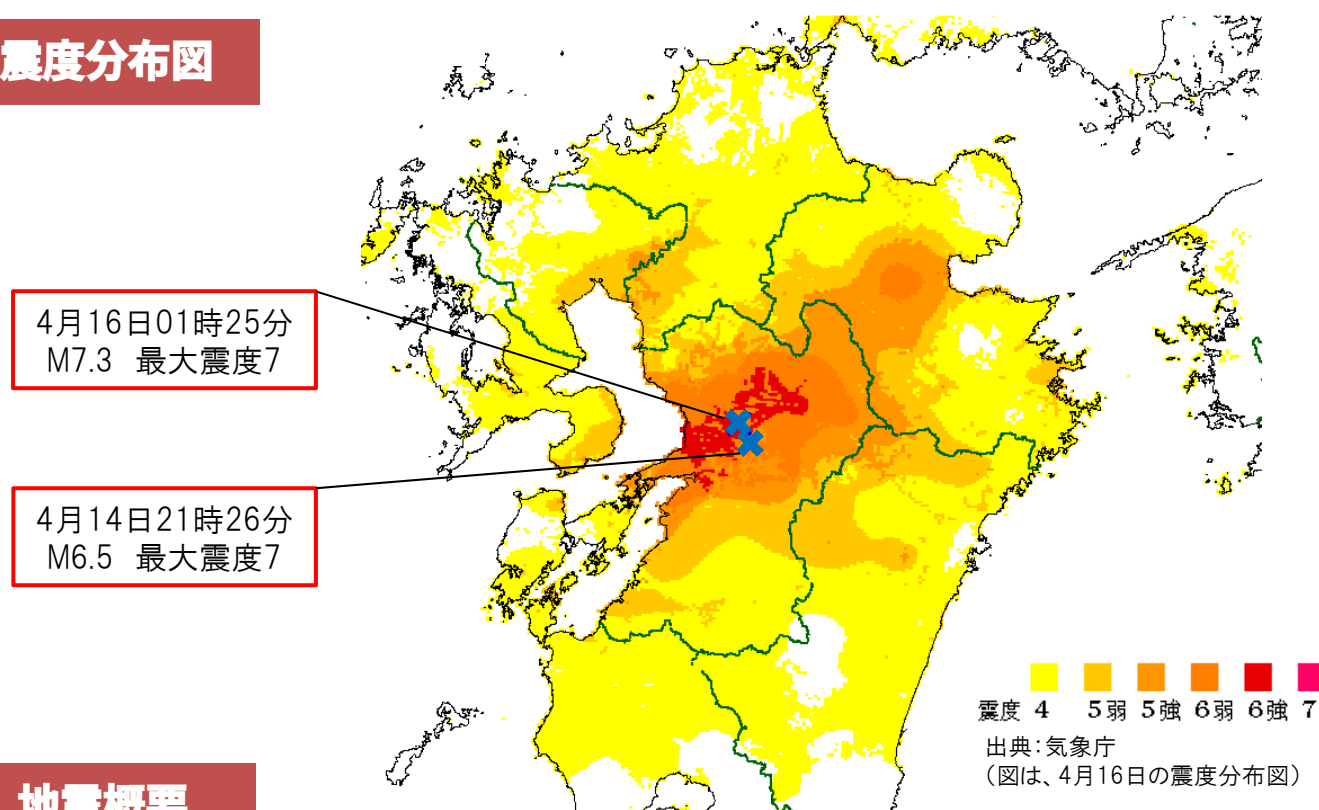
震度7が2回

前例の無い激しい揺れが続けて発生

4月14日以降、熊本県熊本地方、阿蘇地方、大分県中部等にかけて、広い範囲で地震活動が活発化し、震度1以上を観測した回数は4,081回(10月10日24時現在)に達した。一連の地震活動で、震度7を2回観測したのは、1949年に「震度7」の階級ができて以降、今回が観測史上初めてである。

この一連の地震活動により、熊本地方を中心に各地で甚大な被害が発生した。

震度分布図



地震概要

発生日時	平成28年4月14日(木)21時26分(前震) 平成28年4月16日(土)01時25分(本震)
震源	熊本県熊本地方
規模	マグニチュード6.5(前震) マグニチュード7.3(本震)
地震名	平成28年熊本地震
主な震度	○前震 震度7 益城町 震度6弱 玉名市、西原村、嘉島町、宇城市、熊本市 ○本震 震度7 西原村、益城町 震度6強 南阿蘇村、菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、合志市、熊本市

激震の爪痕

地震発生



益城町（H28. 4. 23）

前例の無い地震は、各地に甚大な被害をもたらした

2回の震度7とその後の地震活動により、震源地に近い熊本市、益城町、西原村、南阿蘇村を中心に各地で甚大な被害が発生した。

住宅の被害は20万棟以上、最大時には20万人以上の方々が避難（所）生活を強いられることとなった。

被災状況

死者・負傷者

死者 272名 重傷者 1,202名 軽傷者 1,606名 （平成28年4月14日からの累計）

※死者数内訳：

- ・警察が検視により確認している死者数 50名
- ・市町村において災害弔慰金法等に基づき災害が原因で死亡したものと認められた死者数 214名
- ・H28年6月19日から6月25日に発生した被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数 5名

（出典：総務省消防庁応急対策室公表資料（H30. 10. 15現在））

建物被害（住宅被害） （非住家被害） （火災）

全壊 8,668棟 半壊 34,720棟 一部損壊 162,562棟
公共建物 439棟 その他 11,160棟
15件

（出典：総務省消防庁応急対策室公表資料（H30. 10. 15現在））

避難所の状況（最大時）

○熊本県855箇所（4/17 09:00）※¹ 183,882名（4/17 09:30）※¹
○大分県181箇所（4/17 05:00）※¹ 16,238名（ - ）※²
○福岡県249箇所（4/16 18:00）※¹ 1,924名（4/16 07:00）※²
○宮崎県 29箇所（4/17 05:00）※¹ 531名（4/16 21:00）※²
○長崎県 21箇所（4/17 21:00）※¹ 1,711名（4/17 03:00）※²

（出典：※¹内閣府公表資料 ※²各県公表資料を基に九州地方整備局で抽出）

堤防に亀裂

地震発生



緑川 (H28. 4. 16)

堤防の亀裂や沈下が発生

地震発生後、国が管理する緑川水系や白川水系、菊池川水系では、河川堤防の亀裂や沈下等172箇所の変状が確認されたほか、自治体が管理する河川でも大きな変状が生じた。

梅雨時期が目前に迫り、一刻も早い緊急復旧工事が求められた。



緑川水系赤井川 (H28. 4. 26)

地震発生

大規模 崩落



南阿蘇村(H28.4.16)

約50万 m^3 の土砂が一気に崩落

南阿蘇村阿蘇大橋地区では、4月16日の本震により長さ約700m、幅200mの大規模な斜面崩落が発生した。今回の地震では、阿蘇地域を中心に多くの土砂崩れが確認されている。



南阿蘇村(H28.4.18)

動脈寸断

地震発生



撮影:(有)空撮ジャパン

南阿蘇村(H28.5.8)

国道57号やJR豊肥本線など、道路、鉄道の大動脈が寸断

今回の地震では、斜面崩落により熊本と大分を結ぶ主要な交通ルートである国道57号、JR豊肥本線が寸断された。また、熊本市街地から南阿蘇村への主要ルートである国道325号で阿蘇大橋が落橋するなど、いたる所で通行不能となり、救助・救援、緊急物資輸送のほか、地域の生活再建に支障が生じることとなった。



南阿蘇村(H28.4.19)

建物倒壊

地震発生



益城町(H28.5.14)

国の重要文化財をはじめ、多くの建物が倒壊

今回の地震により、熊本市、益城町、西原村を中心に、住宅の全壊が8千棟以上、半壊・一部損壊が19万棟以上に達した。また、熊本県を代表する観光地の熊本城や日本三大楼門の一つを有する阿蘇神社など、多くの文化的建築物が甚大な被害を受けた。



熊本城(H28.4.15)



九州運輸局提供

阿蘇神社(H28.5.8)



宇土市役所(H28.4.19)

2県21市町村へ 派遣

被災地
支援



阿蘇市(H28.5.3)

地方整備局職員が地域に寄り添い、県や市町村をサポート

リエゾン(現地情報連絡員:フランス語で、「組織間の連絡、連携」の意味)は、発災直後から被災した地方公共団体の災害対策本部に派遣され、被災状況や必要な支援内容等の情報を把握し、地方整備局との連絡・調整を行った。発災後、8月31日までに延べ約2,400人を派遣した。



嘉島町(H28.4.19)



益城町(H28.4.21)

海上から 緊急救援

被災地
支援



熊本港 (H28. 4. 17)

全国の地方整備局所有船が、救援物資の運搬を支援

被災地への救援物資をとどけるため、全国の地方整備局が所有する大型浚渫兼油回収船等を使い、大分、福岡の港湾へ海上から緊急輸送を行った。さらに、断水している地域の住民に対する給水や入浴支援を実施した。

▼ 白山丸による支援物資輸送

北陸地整から届いた物資を荷下ろし
【博多港】(H28.4.21)



▼ 海翔丸による入浴支援

海翔丸に乗船する地域の方々



浴室の様子



▼ 清龍丸による支援物資輸送



被災地
へ搬入

支援物資の荷下ろし

被災地を支援する 「道の駅」

被災地
支援



出典) 九州沖縄「道の駅」連絡会事務局

道の駅「小国」(H28. 4. 16)

避難者を受け入れ、防災拠点として被災地を支援

「道の駅」は、災害発生直後から避難者を受け入れ、水・飲料、被災住宅の応急処理用のブルーシート等を無料配給し、炊き出しで被災者を支援。さらに、自衛隊の活動拠点となったほか、緊急車両へ通行可能な道路情報を提供するなど、防災拠点としての機能を発揮した。



道の駅「竜北」(H28. 4. 20)



出典) 九州沖縄「道の駅」連絡会事務局

道の駅「阿蘇望の郷くぎの」(H28. 4. 24)



出典) 九州沖縄「道の駅」連絡会事務局

ブルーシート配布状況

道の駅「大津」(H28. 4. 20)



出典) 九州沖縄「道の駅」連絡会事務局

道の駅「阿蘇望の郷くぎの」(H28. 4. 22)

上空から 被災調査

被災地
支援



福岡空港(H28.4.26)

防災ヘリからリアルタイムで映像配信、早期対応の判断材料に

地震(前震)発生後、国土交通省の防災ヘリ3機(はるかぜ号、愛らんど号、ほくりく号)を被災地の上空に派遣した。防災ヘリから送られてくるリアルタイム映像が、被災状況の全貌を明らかにするとともに、自治体と情報共有を図ることで、早期対応の判断材料となった。



南阿蘇村(H28.5.17)



南阿蘇村(H28.4.17)



「はるかぜ号」機内(H28.5.17)

被災地
支援

ドローンで 鳥の目調査



南阿蘇村 (H28. 4. 20)

無人航空機のドローンを用いた、より詳細な調査を実施

防災ヘリや地上からは把握できない斜面崩壊状況や土砂堆積状況を詳細に把握するため、ドローンを被災箇所近くに飛行させ、搭載されたカメラで斜面の様子を記録した。

特に、多くの土砂災害が発生した南阿蘇村では、調査映像を村役場へ提供した。



南阿蘇村 (H28. 4. 17)

TEC-FORCE 出動

復旧へ



南阿蘇村(H28.4.22)

早期復旧に向け、全国から延べ約8,200人が被災地に集結

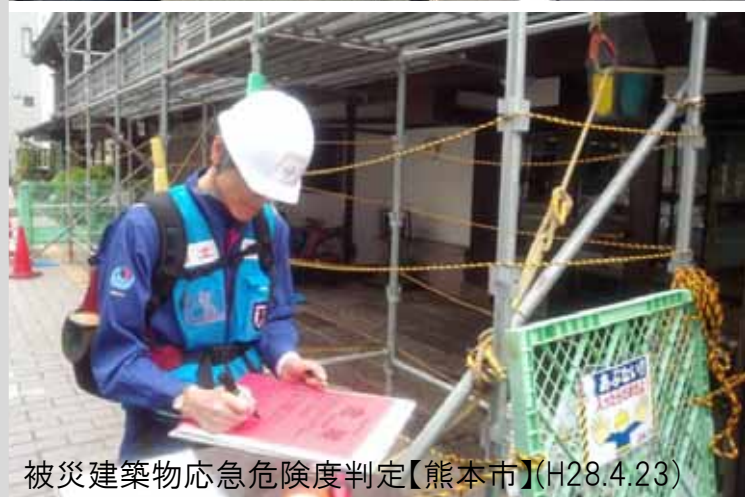
崩壊した道路、亀裂が走った河川堤防、崩落した法面など、被災した各所に国土交通省の9整備局等と沖縄総合事務局から災害対応のスペシャリストが集結した。TEC-FORCEと呼ばれるこの緊急災害対策派遣隊は、4月22日には約440人が被災調査を実施した。発災後、5月31日までに延べ約8,200人が派遣された。この迅速な調査が早期の応急復旧を可能とした。



道路被災調査【益城町】(H28.4.17)



河川変状調査【緑川】(H28.4.15)



被災建築物応急危険度判定【熊本市】(H28.4.23)



港湾施設調査【熊本港】(H28.4.26)

「命の道」を すばやく確保

復旧へ

1週間で復旧完了
(国道443号益城町寺迫地区)

H28.4.20

人命救助、救援物資の輸送に不可欠な道路を早期に復旧

早期復旧に向け、本震発生翌日の17日に東海大学阿蘇キャンパスへの物資支援ルート、18日にミルクロード(県道北外輪山大津線)、20日に益城町寺迫地区の国道443号、22日にはグリーンロード(町道高野原線)の道路啓開を行った。被災から概ね一週間以内に、人命救助、救援物資輸送に不可欠な道路を復旧させた。

土砂崩落により全面通行止
(ミルクロード)

H28.4.16

6日後に復旧完了
(ミルクロード)

H28.4.22



復旧へ

24時間態勢で 緊急復旧

24時間態勢で工事を実施
(緑川)

H28.5.6

梅雨入りを前に、河川堤防の応急復旧を完了

地震発生後、河川堤防の変状が確認された緑川水系、白川水系、菊池川水系の172箇所のうち比較的変状の小さな箇所は、ただちに応急復旧を完了した。

比較的変状の大きい緑川水系の11箇所は、一刻も早い完了を目指して24時間態勢にて緊急的な復旧工事を進め、建設業者の協力を得て5月9日までに全ての工事が完了した。

TEC-FORCEによる
工事監督(緑川)

H28.5.1

緊急復旧工事完了
(緑川)

H28.5.9

緑川流域を まもり・つなごう！

復興に
向けて

H29. 4. 29 「緑川の日」流域復興イベント（排水ポンプ車による洪水時の歩行訓練）

災害復旧完了に合わせ、「緑川の日」流域復興イベントを開催

熊本地震で被災した緑川では、さらなる「流域の復興」を祈念し、平成29年4月29日に流域で活動する河川協力団体や流域市町村、国が連携・協力して復興イベントを開催した。

3,000名を超える参加者は、さらなる連携により強く結びつき、流域の文化・生活をまもり、次世代につなぐための大きな第一歩となることを誓った。



流域サミット



ふれあい建設機械体験



ステージイベント



緑川流域物産販売・うまいもの市

梅雨前に堤防復旧

復興に
向けて



H29. 5. 31堤防の復旧が完了し「銘板」の除幕を行う自治会長

堤防変状箇所の本格的な復旧工事が完了

本格的な復旧に向け、「緑川・白川堤防調査委員会」を設置し、被災原因と復旧工法、完成後のモニタリング方法等を検討。緑川で40箇所、白川で12箇所で大規模な復旧工事を実施し、本格的な梅雨期前の平成29年5月31日に完了した。



被災直後
(緑川)
上杉地区



堤防の被災調査



緑川・白川堤防調査委員会



緑川-上杉地区



緑川-下仲間地区（堤防復旧完了）

熊本を結ぶ

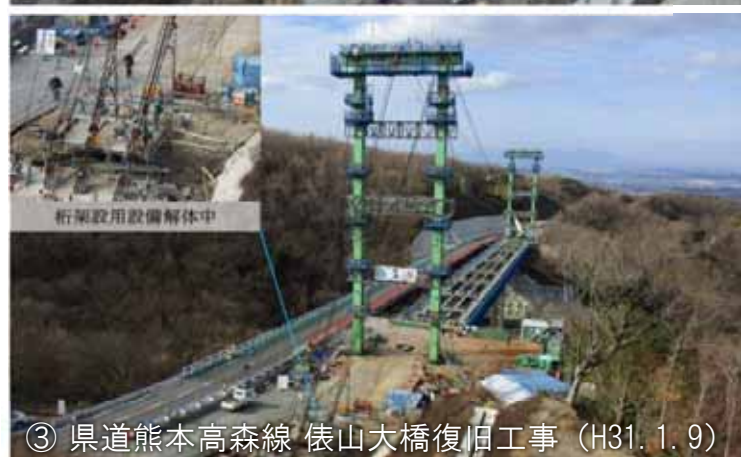
復興に
向けて



産学官の技術力を結集し幹線道路の復旧を始動

国土交通省は、熊本地震により通行不能になっている阿蘇地域を結ぶ国道57号を始め、熊本県や南阿蘇村に代わり「国道325号阿蘇大橋」、俵山トンネルを含む「県道熊本高森線」、阿蘇長陽大橋を含む「村道栃の木～立野線」の復旧事業に取り組んでいる。

【阿蘇地域復旧事業マップ】



復興に
向けて

阿蘇大橋地区 復旧へ前進



H31. 1. 23復旧作業が進む阿蘇大橋崩壊箇所

本格復旧にむけて無人化作業から有人作業へ

平成29年4月16日の本震による斜面崩壊で、熊本から阿蘇地域への動脈が寸断された。崩壊地内の緊急的な復旧作業は、平成28年12月末までに無人化施工による、土留盛土工の設置、斜面頭部の不安定土砂の除去が完了し、平成29年1月から斜面下部での有人作業に着手した。平成29年7月からは、恒久対策工事を実施している。



無人化施工の状況(H28.6.11)

土留盛土工(上部)と
鋼製土留工(下部)(H30.8.31)

操作室からの遠隔操作

法面对策工(密着型安定ネット工)
施工状況(H30. 3. 27)

俵山トンネル再開

復興に
向けて



H28.12.24開通式

俵山トンネルルートが通行再開し地域経済の復興に弾み

熊本地震で不通となっていた西原村と南阿蘇村を結ぶ県道28号(通称:俵山トンネルルート)は、国による工事が完了し平成28年12月24日に通行を再開した。開通式には、蒲島熊本県知事をはじめ地域の皆さんに参加いただき、道路の開通に多くの喜びの声があがった。



通行再開後



熊本県への引き継ぎ



通行再開を喜ぶ地域の皆さん

熊本・八代港を 国際クルーズ拠点に

復興に
向けて



八代港に寄港したアジア最大級のクルーズ船（H28. 7. 7）

国際クルーズ拠点を形成し、熊本地震からの復興の弾みに

東アジアのクルーズ人口が増加するなか、平成29年7月 官民が連携して港湾施設を整備し、クルーズ船の寄港を促す「国際旅客船拠点形成港湾」に八代港が指定され、現在、受入拠点に向けた整備を推進している。今後、多くの観光客が熊本に訪れ、熊本地震からの復興の弾みになることが期待されている。



官民連携による国際クルーズ拠点の整備イメージ



地元のおもてなし



クルーズ船の観光客で賑わう八代宮

阿蘇長陽大橋 再開

復興に
向けて



H29.8.27開通後の阿蘇長陽大橋

長陽大橋ルートが通行再開し地域経済の復興に弾み

熊本地震で大きな被害を受け通行できなくなっていた村道柵の木～立野線(長陽大橋ルート)は、国による応急復旧工事が完了し、平成29年8月27日に通行が再開した。熊本ICから南阿蘇村役場間の所要時間が25分短縮するなど、地域経済復興の弾みとなった。



被災直後の阿蘇長陽大橋



南阿蘇村の方々の手作りの横断幕

復興のシンボル 熊本城 再建へ

復興に
向けて



2019. 1 大天守閣の復旧がほぼ完了し、小天守の解体、天守台石垣の復旧作業を進めている。

復旧が進む熊本城の天守閣

熊本地震により熊本城は、城内の13の重要文化財と20の復元建造物の全てが被害を受けた。復興のシンボルである熊本城天守閣は、2019年秋に大天守の外観復旧、2021年春頃に小天守の外観復旧の予定。

全体復旧完了に向け、関係機関が連携して、再建へ向けた本格的な復旧工事を行っている。



2018. 12 解体が完了した「飯田丸五階櫓」
現在、石垣の解体作業を進めている。



天守台石垣の復旧状況

熊本城公園復旧推進調整会議 構成員

熊本市：経済観光局	観光交流部
	文化・スポーツ交流部
	都市建設局
	土木部
熊本県：教育委員会	
	土木部
	道路都市局
文化庁：文化財部	
国土交通省：都市局	
	九州地方整備局
	建政部

復興に
向けて

北側復旧ルート 開通へ前進

熊本地震 国道57号北側復旧ルート全線貫通式



2019. 2. 23 国道57号北側復旧ルート全線貫通式

ふたえの どうげ

二重峠トンネルが貫通し、北側復旧ルート全線が貫通

大規模な斜面崩壊により通行不能となっている国道57号の復旧のため、直轄事業として災害復旧を進めている国道57号北側復旧ルート(延長約13km)について、主要な構造物である二重峠トンネルの貫通により、北側復旧ルート全線が貫通した。今後も2020年度での全線開通を目標に復旧工事を進めていく。

【阿蘇地域復旧事業マップ】



① 赤水地区 黒川避溢橋の工事状況 (2019. 2. 12)



② 阿蘇側坑口付近の工事状況 (2019. 2. 12)



③ 平川地区 平川函渠設置工事状況 (2019. 2. 12)

熊本を元気に 阿蘇に行こう！

復興に
向けて

マゼノ溪谷(小国町)

観光復興に向けた「阿蘇地域アクセスルートマップ」

九州地方整備局では、阿蘇地域への通行可能な道路を示した「阿蘇地域アクセスルートマップ」を公表しています。世界的な観光地である阿蘇地域へ行く時や、阿蘇地域から各方面へ九州内を周遊する時などにご利用ください。



鍋ヶ滝(小国町)



QRコードからどうぞ



元気に営業中！



道の駅 阿蘇(阿蘇市)



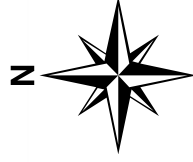
草千里(阿蘇市)



南外輪山一円

阿蘇地域 アクセス 検索

阿蘇地区周辺の復旧・復興状況



2019.3.31現在

国道57号北側復旧ルート

○2020年度開通予定

阿蘇大橋

被災直後

国道325号阿蘇大橋

○2020年度開通予定

阿蘇長陽大橋

被災直後

熊本空港

俵山トネル

被災直後

斜面崩塌箇所

長陽大橋儿一ト (村道析の木～立野線)

【開通】平成29年8月27日開通(応急復旧)

俵山トンネルルート (国道能本高森線)

【開通】平成28年12月24日通行再開

[部分開通] 平成29年12月14日 鳥子地区現道へ切り替え

[部分開通] 平成30年7月20日 桑鶴大橋へ切り替え